

3 実践編



通級による指導の授業づくりについて知りたい

- 通級による指導モデルケース (漢字を正しく用いて文章を書くことが苦手な生徒)
 1. モデルケースの見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
 2. 情報収集シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
 3. 自立活動の「個別の指導計画」作成のための流れ図・・・・・・・・27
 4. 自立活動の「個別の指導計画」・・・・・・・・・・・・・・・・31
 5. 授業展開例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
 6. 学習振り返りシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
 7. 指導の記録シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
 8. 保護者連絡シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
 9. 自立活動の「個別の指導計画」の評価・改善・・・・・・・・40
 10. 個別の教育支援計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

通級による指導 情報収集シート

令和2年5月24日作成

年	組	氏名	通級指導担当
1	1	通級 マリ	森村 ミユ

※上記の生徒について、以下の観点で、できていること、できていないことを記入してください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ・基本的な生活習慣など日常生活に関すること | ・気持ちや情緒のコントロールに関すること |
| ・集団参加や対人関係に関すること | ・身体の動きに関すること |
| ・1対1でのコミュニケーションに関すること | ・学習に関すること |
| | ・その他 |

教科等	担当者	できていること	できていないこと
記入例	〇〇〇〇	・計算問題は正確にできる。 ・どんなことにも進んでチャレンジする。 ・運動神経が良く、部活動を頑張っている。	・話の内容が理解できないことが多い。 ・衝動的な行動が原因で友達とトラブルになる。 ・忘れ物が多い。
国語	〇〇〇〇	・漢字に振り仮名を振ると、読むことができる。 ・自分の考えを言葉で表現できる。	・形が類似した漢字に書き間違いが多い。 ・文章表現するときは、平仮名が多い。 ・教科書の内容を理解するのが難しい。
社会	〇〇〇〇	・資料を見て分かったことを発表している。	・板書をノートに書き写すが、間違いが多い。 ・漢字が読めず、教科書の内容を理解するのが難しい。
数学	〇〇〇〇	・正負の数の計算ができる。 ・板書をノートに書き写すことができる。	・文章問題が苦手。
理科	〇〇〇〇	・観察した花を正確にスケッチした。	・分かったことを文章で表すが、平仮名が多い。
音楽	〇〇〇〇	・アルトリコーダーに興味を示し、運指に気を付けて演奏している。	・話した指示が正確に伝わらないことがある。
美術	〇〇〇〇	・作品作りを楽しんでいる。	
保体	〇〇〇〇	・手本を見せると模倣できる。	
技・家	〇〇〇〇	・作品の完成形に興味深そうに見ていた。	
英語	〇〇〇〇	・絵カードを見せると英単語を理解し、発音できる。	・形が類似したアルファベットに書き間違いが多い。 ・英単語と英単語の間にスペースを置かないで書いてしまう。
学級	〇〇〇〇	・身だしなみが整っている。 ・生活リズムが整っている。 ・学校行事など、集団での活動に参加できる。 ・特定の友達と共通の話題で会話ができる。 ・係や委員会の仕事には責任を持って取り組むことができる。 ・提出物は必ず期限内に提出している。	・教師の口頭での指示の後には、友達の動きを見てから行動することが多い。
部活動	〇〇〇〇	・気持ちのよい挨拶ができる。 ・友達2人と行動を共にしていることが多い。 ・集中して先輩のプレーを見ている。	
保健室	〇〇〇〇		・けがの状況を紙に書かせたら、ほとんど平仮名だった。



自立活動の「個別の指導計画」ってどのように作成すればいいのでしょうか…？

【流れ図記入の手順】

- ① 収集した情報の整理 その1
- ② 収集した情報の整理 その2
- ③ 指導すべき課題の抽出と背景要因の検討
- ④ 生徒の強みや長所の抽出
- ⑤ 中心的な課題の設定
- ⑥ 年間指導目標の設定
- ⑦ 指導目標の達成のために必要な項目の選定
- ⑧ 具体的な指導内容の設定
- ⑨ 通常の学級における配慮事項の検討

自立活動の「個別の指導計画」作成のために、「流れ図」を使ってみましょう。流れ図とは、情報収集から指導内容を決めるまで流れを示したもので、個別の指導計画の根拠となるものです。一つの例として左のような手順を紹介します。これから、通級マリさんの個別の指導計画作成のための流れ図を詳しく説明しますので、参考にしてください。



①収集した情報の整理 その1 ～ ⑤中心的な課題の設定

まず、「情報収集シート」を使って先生方から集めた生徒の情報を整理します。①では、生徒のできることとできないことを自立活動の区分に即して整理します。6区分に分けているのは障害名のみで判断して特定の指導内容に偏ることがないように、生徒の全体像を捉えて整理するためです。どの区分にも属さない情報は、その他に記入します。



① 収集した情報の整理 その1（6区分の窓を通して）

6区分	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
区分の説明	生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る観点	自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く観点	自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点	感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点	日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点	場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点
できること	○身だしなみが整っている。 ○生活リズムが整っている。	○自分の考えを言葉で表現できる。	○学校行事など、集団での活動に参加できる。	○正負の数の計算ができる。 ○理科で観察した花を正確にスケッチした。	○板書をノートに書き写すことができる。 ○体育では、手本を見せると模倣できる。	○気持ちのよい挨拶ができる。 ○特定の友達と共通の話題で会話ができる。
できないこと		●教師の口頭での指示の後には、友達の動きを見てから行動することが多い。		●形が類似した漢字やアルファベットに書き間違いが多い。 ●文章表現するときは、平仮名が多い。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ卓球部の友達2人と行動を共にしていることが多い。 ・係や委員会の仕事には責任を持って取り組むことができる。 ・提出物は必ず期限内に提出する。 					

②では、学習上又は生活上の困難の視点、これまでの学習状況の視点、数年後の姿の視点といった、①とは別の視点で情報を整理します。小学校からの引き継ぎ事項、生徒や保護者の願いも記入しながら情報を整理します。個別の教育支援計画も参照しながら記入していきましょう。



② 収集した情報の整理 その2 (学習上又は生活上の困難の視点, これまでの学習状況の視点, 数年後の姿の視点)

小学校や前年度からの引継事項	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生のときに読み書き障害の診断を受けている。 ・6年生から通級による指導を受けている。 ・漢字の読み書きは、3年生程度である。(小学校1年生の後半に漢字の学習が始まってから困難をきたすようになった。) ・図工の作品づくりが得意だった。(完成作品を見て作品を作っていた。) ・四則計算・分数・小数の計算ができる。 ・簡単な図形の問題は解ける。 ・6年生のときの通級による指導の年間指導目標 「3年生までに学習した漢字を正しく読み書きできる。」 「話を聞き、教師の問いに正しく答えることができる。」 ・通級指導教室では、漢字の読み書き指導に重点を置いて指導し、定着するように反復練習やゲームを取り入れてきた。漢字の読み書きは定着しつつあるが、作文の中で漢字を使用するのは難しいようである。また、聞くことに関しては、聞いた話の簡単な内容についての問いに正しく答えられるようになり、集中して話を聞くことができるようになった。 ・通常の学級では、読み方が分からない漢字には、教師が読み方を教えて本人に振り仮名を振るように指導していた。音読ができるようになったら振り仮名を消す約束にしていた。
生徒の願い 保護者の願い	<p>生徒:中学生になったのもっと勉強を頑張りたい。英語の勉強が分かるようになりたい。</p> <p>保護者:漢字の読み書きができるようになってほしい。高校入試を見据えて、家庭学習の習慣が付いてほしい。</p>
収集した情報の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・形が類似した漢字に書き間違いが多く、文章表現は平仮名表記になっている。 ・形が類似しているアルファベットの書き間違い多くて困っている。 ・小学校での通級による指導により、小学3年生までの漢字は読み書きできると捉え、中学校では、小学4年生の漢字の読み書きから指導を始める。 ・漢字を使って文章を書くことが困難である実態から、卒業までに常用漢字の読み方を身に付け、タブレットを使用しながら、漢字を用いて自分の考えを文章で表せることで、書くことへの困難さを軽減し、学習への意欲を向上させることができる。



情報を整理するだけでも、観点がいくつかあるのですね。

ここで整理したことが、このあとの指導すべき課題や指導目標を設定する場面で生きてきます。複数の先生で話し合いながら行うとよいでしょう。

次の③では、①②で整理した情報の中から課題となることを抽出し、その背景要因を「~かも」の形で記入します。右の図は「冰山モデル」で、生徒の見えている姿を氷山の一角と捉え、さらに水面下に隠れている部分、すなわち背景要因にも目を向けることを指します。③では指導すべき課題と背景要因を氷山に見立てて記入します。生徒の抱える課題には様々な要因が隠れていて、そこに目を向けることが大切です。また、④では生徒の強みや長所について抽出します。背景要因や強みにも目を向けることが、生徒の困難を改善していくための指導内容を考えるヒントになります。



③ 指導すべき課題の抽出と背景要因の検討(①②から、指導すべき課題を抽出し、その背景要因に目を向ける)

指導すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の口頭での指示の後には、友達の動きを見てから行動することが多い。 ・体育では、手本を見せると模倣できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現するときは、平仮名が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形が類似した漢字やアルファベットに書き間違いが多い。
背景要因	<ul style="list-style-type: none"> ・気になることやものがあると、話に集中できなくなるのかも。 ・耳で聞くだけではなく、目で確認すると理解できるのかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく覚えていないのかも。 ・漢字の間違いを恐れているのかも。 ・漢字の形と読みが一致していないのかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目で全体像を捉えているが、細部まで注意が届いていないのかも。

④ 生徒の強みや長所の抽出(⑦の具体的な指導内容を設定する際に強みや長所を生かせるようにする)

生徒の強みや長所	<ul style="list-style-type: none"> ・すべきことを目で確かめると、行動することができる。 ・手本を見せると模倣できる。 ・自分の考えを言葉で表現することができる。
----------	---



見えている課題だけでなく、その背景要因を考慮ことや、生徒の強みも考えることが大事なのですね。

⑤では、③で抽出した指導すべき課題から、生徒の中心的な課題を導き出します。中心的な課題とは、その生徒の課題の根本となるものです。



⑤ 中心的な課題の設定(③から中心となる課題を導き出す)

中心的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体像の中から注目すべき場所を選択して見るができるようになる。(心・環) ・自分に合った学び方を習得し、漢字やアルファベットを正しく使って文を書くことができる。(健・心・環)
--------	---

ここまでで、生徒の中心的な課題が導き出されました。次からは、指導目標や指導内容を決定していきます。



⑥年間指導目標の設定 ～ ⑧具体的な指導内容の設定

⑥では、⑤に基づいて今年度の指導目標を設定します。年間指導目標は、自立活動の「個別の指導計画」に記載されるとともに、学期ごとの指導目標を決める際の基となるものです。年間指導目標のような長期的な目標や、学期ごとの短期的な目標を定めることが、自立活動の指導の効果を高めることにつながります。



⑥ 年間指導目標の設定(⑤から今年度の指導目標を設定する)

年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学び方を習得し、小学校4年生の漢字やアルファベットを正しく用いて、文を書くことができる。(健・心・環) ・タブレット端末の使い方を習得し、正しい漢字を使って自分の考えを文章で表現できる。(健・心・環)
--------	--

最後に、具体的な指導内容を設定します。⑦では、⑥の年間指導目標を達成するために必要な項目を自立活動の内容6区分27項目の中から選定します。選定する際は、指導すべき課題全てについてではなく、⑥の年間指導目標に関わるものだけを選びます。項目を選ぶ際は、「様式・資料集」にある「学習指導要領における自立活動の内容」に詳しい説明があるので参考にとよいでしょう。



様式・資料集 学習指導要領における自立活動の内容

⑦ 年間指導目標の達成のために必要な項目の選定(⑥に関わるもののみ選ぶ)

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	情緒の安定に関すること	他者とのかかわりの基礎に関すること	保有する感覚の活用に関すること	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	コミュニケーションの基礎的能力に関すること
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関すること	状況の理解と変化への対応に関すること	他者の意図や感情の理解に関すること	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること	言語の受容と表出に関すること
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関すること	障害による学習又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	自己の理解と行動の調整に関すること	感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	日常生活に必要な基本動作に関すること	言語の形成と活用に関すること
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		集団への参加の基礎に関すること	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	身体の移動能力に関すること	コミュニケーションの手段の選択と活用に関すること
(5)	健康状態の維持・改善に関すること			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	状況に応じたコミュニケーションに関すること

⑧ 具体的な指導内容の設定

(⑦で選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定する。⑦で選定した項目を線でつなぐ)

指導内容 (週1回)	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を構成要素に分解したり再構成したりして、正しく漢字の読み書きができるようにする。→ 指導例 P. 34 通常の学級の授業で書いたノートを生徒と一緒に見直し、漢字が正しく使われているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことの抵抗を減らすためにタブレット端末の活用方法を習得する。 タブレット端末を活用し、漢字を正しく使って作文できるようにする。→ 指導例 P. 35 	<ul style="list-style-type: none"> 多感覚を働かせ、注意すべき点を具体的に視覚化することで、アルファベットを正しく書けるようにする。→ 指導例 P. 36 日本語と英文の書き方の違いに気付き、語と語の区切りに注意してスペースを置き、それを意識しながら書くことができるようにする。→ 指導例 P. 36
---------------	--	---	---

⑨ 通常の学級における配慮事項の検討(通常の学級で配慮すべきことを考える)

通常の学級における配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の読めない漢字には、教師が読み方を教えて本人が振り仮名を振るようにする。 教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 ノートにアルファベット表を貼り、忘れたときには見ることができるよう配慮する。
---------------	--

⑧では、具体的な指導内容を設定します。設定に当たっては、主体的に取り組む指導内容、改善・克服の意欲を喚起する指導内容、発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容、自ら環境を整える指導内容、自己選択・自己決定を促す指導内容、自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容、などを踏まえて検討します。また、③で抽出した生徒の強みや長所を生かすような指導内容にすると、生徒の主体性や自己肯定感の高まりが期待できます。さらに、それぞれの指導場面を記入します。最後に、指導内容と選定した項目を線でつなげましょう。

⑨では、通常の学級での配慮について検討し、記入します。

以上で「流れ図」の説明は終了です。この後、自立活動の「個別の指導計画」を作りますが、⑧、⑨を基にして、「学期の指導内容」と「学期の通常の学級での配慮事項」を検討し、記入します。



分かりました。この例を参考にして、他の生徒でも「流れ図」を使って自立活動の「個別の指導計画」を作成してみます。



複数で

自立活動の「個別の指導計画」 令和2年6月7日作成

学年・組	生徒氏名	作成者	学級担任
1年 1組	通級 マリ		

流れ図を参考に、生徒や保護者の願い、年間指導目標を記入します。

生徒・保護者の願い	<p>生徒：中学生になったのもっと勉強を頑張りたい。英語の勉強が分かるようになりたい。</p> <p>保護者：漢字の読み書きができるようになってほしい。</p>
-----------	--

年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った学び方を習得し、小学校4年生の漢字やアルファベットを正しく用いて、文を書くことができる。(健・心・環) タブレット端末の使い方を習得し、正しい漢字を使って自分の考えを文章で表現できる。(健・心・環)
--------	--

		1学期	2学期	3学期
指導目標	指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った漢字の覚え方を知り、習得した漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 形が類似しているアルファベットの違いを見分け、正しく書くことができる。 		
	通級指導教室での指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素を分解して細部を見たり、再構成して漢字の全体を捉えたりする。 タブレット端末を活用し、同音異義語に注意して短文を作成できるようにする。 英語4野線を使ってアルファベットを書けるようにする。 週1時間の指導を行う。 		
評価	通常の学級での指導内容 又は、配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の読めない漢字には、教師が読み方を教えて本人が振り仮名を振るようになる。 教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 ノートにアルファベット表を貼り、忘れたときには見ることができるよう配慮する。 		
	通級指導教室	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を構成要素に分解して学習することで、漢字の細部に注意し、4年生の漢字を40字程度正しく書けた。 タブレット端末を活用し、漢字や熟語の意味を考えながら、同音異義語を正しく使用して短文を作ることができた。 多感覚を使ってアルファベットを覚えたことで、形や向きに注意して書けるようになった。 		
	通常の学級	<ul style="list-style-type: none"> 振り仮名を振ることに抵抗がなくなり、分からない漢字は自分から聞いたり調べたりするようになった。 アルファベット表をノートに貼ったことで、自分で確かめられるようになり、間違いが減った。赤ペンで直されなくなったことを喜んでいた。 		

年間指導目標を参考に、学期ごとの目標を記入します。

通級による指導の指導内容と、在籍学級での生活や授業中の指導内容を記入します。

学期の終了ごとに、指導の評価を行います。次学期の指導目標や指導内容も考え、2学期の欄に記載します。

次年度に向けて



P.40 自立活動の「個別の指導計画」の評価・改善

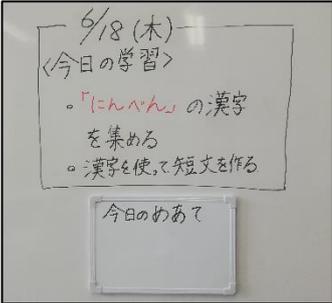


50分間の授業の流れはどのようにすればいいのですか？

下の【指導過程の例】のように、生徒に授業の見通しを持たせる時間、めあてを決める時間、学習の振り返りの時間も含めて50分間の流れを組み立ててみてください。



【指導過程の例】

	学習過程	指導上の留意点
導入	1 挨拶をする	
2分	2 本時の授業の流れを確認する	
3分	3 本時のめあてを決める	
展開 40分	4 活動1	<p>授業中、生徒を褒める、励ます、認めることを意識し、自己肯定感が高まるような声掛けをすることが大切です。</p>
	5 活動2	
終結 5分	6 学習の振り返りをする	<p>学習振り返りシートに記入し、本時の学びを振り返ります。また、次回の学習内容について、生徒と対話し、主体的に学習できるものを選択させるなど工夫しましょう。</p>
	7 挨拶をする	

個別の指導計画を作成したり評価・改善したりする際、指導内容を考えますが、生徒に合わなかったり、生徒の実態に合わせてステップアップしたりすることも考えられます。そのようなときは生徒と話し合いながら本人に合った学び方を探ってみてはどうでしょう。中学生ですから、自分に合った学びなのか否かを判断できる年齢です。生徒自身が「自分にもできる！」と思える活動なら、主体的に学ぼうとする意欲が生まれ、通級による指導の効果が更に期待できます。「できた！」という実感も得られ、自己肯定感の高まりにもつながりますよ。





自立活動の授業をしたことがないので、どんなことをすればよいのかイメージが湧きません…。

モデルケースとしての授業展開例が3パターンあります。指導内容だけを見るのではなく、流れ図や個別の指導計画とのつながり、授業の組み立て方など、指導を行う際の参考にしてください。



ねらいや活動内容は、流れ図や個別の指導計画を基にしています。

3 実践編

5 1 漢字を構成要素に分解して学習

通級による指導モデルケース

▶指導に当たって

- ・マリさんは、視覚で捉える力が強いと考え、漢字をへんとつくりなどの構成要素に分解し、注意すべき点を焦点化した後に再構成することで漢字を正しく覚えられると考えた。
- ・活動1では、「にんべん」の漢字を漢字カードから探す活動を行い、仲間分けて学習できるようにした。
- ・活動2では、マリさんの強みである視覚で捉える力と手の器用さを生かし、漢字を要素ごとに色分けする活動を行う。漢字を分解し再構成する際に、視覚で捉えている漢字の要素を言語化して話すことで、漢字を覚えられるヒントになると考えた。
- ・活動3は、学習した漢字を使って短文を考える活動である。

▶本時のねらい

- ・漢字を構成要素に色分けして分解する学習を通して、漢字を正しく捉えて書くことができる。(環)
- ・短文作りを通して文中で漢字を使うことができる。(環)

▶指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	1 はじめの挨拶をする。 2 授業の流れを確認する。 3 本時のめあてを決める。	・生徒と目を合わせて挨拶をする。 ・生徒に授業内容の選択をさせるなどの配慮をする。
展開 10分	4 活動1 ・にんべんの漢字を探す。 	・「へん」に焦点を当て、視覚を使ってにんべんの漢字を探すよう指示する。その際、読み方を一緒に確認する。 ・「にんべん」の漢字を探して書いてみましょう。 ・「伝える」「付く」「借りる」「億」…いっぱい見付けました。 ・今日はにんべんの漢字を分解して漢字の勉強をしてみましょう。
15分	5 活動2 ・漢字を分解して色分けする。 漢字を分解してみましょう。「位」をへんとつくりに分けると…「にんべん」と「立」で「くらい」です。 	・へんとつくりで分解するのではなく、生徒本人が分かる漢字や片仮名に分解し、覚えられるようにする。 ・「信」は「にんべん」と「言(言う)」です ・「伝」は、「にんべん」と「ニ」と「ム」に分けられます!
15分	6 活動3 ・学習した漢字を使って短文を作る。	・間違えそうな漢字の構成要素に気を付けられるようにする。 ・漢字を再構成する際に、「人が言わせて漢字を書けるように、生徒が書いて、書き順にそって語呂合わせを考 ・学習した漢字はファイリングし、読み ・生徒が音読みと訓読みを合わせた短文を作る。
15分	7 授業の振り返りをする。	・振り返りシートに本時の学習の学びをまとめる。 ・頑張ったことや成長を具体的な言葉で称賛する。 ・次時の授業の予告や次時の授業内容を決める。
5分	8 終わりの挨拶をする。	・生徒と目を合わせて挨拶をする。

P.42からの自立活動指導例では、導入や終結を省略して記載しています。

授業展開例は、略案形式の指導過程に、先生と生徒との会話が加わった仕立てになっています。

また、他の授業展開例として、モデルケースの生徒以外の【自立活動指導例】がありますので、そちらも参考にしてください。ただし、自立活動の指導は「オーダーメイドの指導」です。生徒一人一人の特性と、それぞれの活動のねらいがマッチしていなければなりません。書店にも特性に応じたトレーニング教材の本があり、インターネット上にもヒントとなるものがたくさんありますので、生徒の実態をしっかりと把握した上で、教材・教具を選択し、授業を行うようにしましょう。



P.42～ 自立活動指導例

▶ 指導に当たって

- ・マリさんは、視覚で捉える力が強いと考え、漢字をへんとつくりなどの構成要素に分解し、注意すべき点を焦点化した後に再構成することで漢字を正しく覚えられると考えた。
- ・活動1では、「にんべん」の漢字を漢字カードから探す活動を行い、仲間分けして学習できるようにした。
- ・活動2では、マリさんの強みである視覚で捉える力と手の器用さを生かし、漢字を要素ごとに色分けする活動を行う。漢字を分解し再構成する際に、視覚で捉えている漢字の要素を言語化して話すことで、漢字を覚えられるヒントになると考えた。
- ・活動3は、学習した漢字を使って短文を考える活動である。

▶ 本時のねらい

- ・漢字を構成要素に色分けして分解する学習を通して、漢字を正しく捉えて書くことができる。(環)
- ・短文作りを通して文中で漢字を使うことができる。(環)

▶ 指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	1 はじめの挨拶をする。 2 授業の流れを確認する。 3 本時のめあてを決める。	・生徒と目を合わせて挨拶をする。 ・生徒に授業内容の選択をさせるなどの配慮をする。
展開 10分	4 活動1 ・にんべんの漢字を探す。	・「へん」に焦点を当て、視覚を使ってにんべんの漢字を探すよう指示する。その際、読み方を一緒に確認する。
	 <p>「にんべん」の漢字を探して書いてみましょう。</p> <p>「伝える」「付く」「借りる」「億」……いっぱい見付けました。</p> <p>今日はにんべんの漢字を分解して漢字の勉強をしてみましょう。</p>	
15分	5 活動2 ・漢字を分解して色分けする。	・へんとつくりに分解するのではなく、生徒本人が分かる漢字や片仮名に分解し、覚えられるようにする。
	<p>漢字を分解してみましょう。「位」をへんとつくりに分けると…「にんべん」と「立」で「くらい」です。</p>  <p>へんとつくりだけではなく、自分で覚えやすいように分けることはいいことです。</p>  <p>「億」はどう考えたら分かりやすいか、色分けしてみましょう！</p>	<p>「信」は「にんべん」と「言(言う)」です</p> <p>「伝」は、「にんべん」と「ニ」と「ム」に分けられます！</p>
15分	6 活動3 ・学習した漢字を使って短文を作る。	・間違えそうな漢字の構成要素に目を向けさせ、漢字を書く際に気を付けられるようにする。 ・漢字を再構成する際に、「人が言ったら信じよう」などの語呂合わせで漢字を書けるように、生徒と一緒に考える。注意事項として、書き順にそって語呂合わせを考えるようにする。 ・学習した漢字はファイリングし、繰り返し学習できるようにする。
終結 5分	7 授業の振り返りをする。 8 終わりの挨拶をする。	・振り返りシートに本時の学習の学びをまとめる。 ・頑張ったことや成長を具体的な言葉で称賛する。 ・次時の授業の予告や次時の授業内容を決める。 ・生徒と目を合わせて挨拶をする。

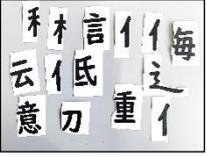
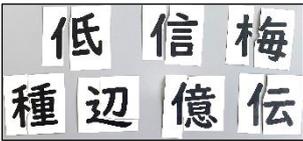
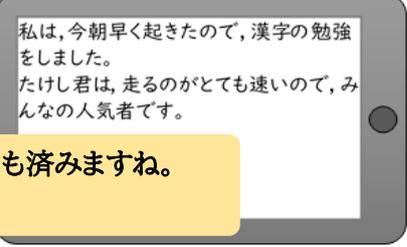
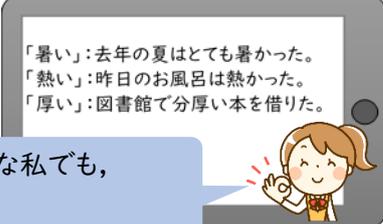
▶ 指導に当たって

- ・活動1では、前時までに学習した漢字の復習を踏まえてパズルに取り組む。
- ・活動2は、タブレット端末を活用した学習活動である。漢字を書くことに困難があるマリさんが、漢字を正しく読んだり使ったりできれば、タブレット端末を活用することで文を正しく作ることができる考えた。間違いやすい漢字として同音異義語を扱い、漢字の意味と漢字を結び付けて覚えられるようにする。
- ・活動3では、調べた漢字をアプリを活用してまとめ、いつでも復習ができるようにする。
- ・活動4では、漢字の意味の違いに注意して打ち込んだ短文を印刷してノートに貼ることで、書くことに困難を抱えているマリさんの自己肯定感に向上につながると考える。

▶ 本時のねらい

- ・タブレット端末を活用して、同音異義語を使った短文を正しく作る。(健・環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 5分	4 活動1 ・漢字パズルに取り組む。 	・漢字を分解したものを組み合わせて、正しい漢字を作らせる。漢字が出来上がったら、読み方を確認する。 
15分	5 活動2 ・タブレット端末を活用して短文を打ち込み、変換する。  この例文をタブレットに打ち込んで、変換してみましよう！ ①わたしは、けさはやくおきたので、かんじのべんきょうをしました。 ②たけしくんは、はしるのがとてもはやいので、みんなのにんきものです。 ③ちゅうがっこうにゆうがくしてはんとしになります。じかんがたつのははやいものです。	・タブレット端末を活用して文を打ち込む練習をさせる。また、間違いやすい同音異義語を文の中に入れ、正しく変換できているか確認する。 ・「早い」「速い」の使い方を理解できているかを確認する。 
10分	6 活動3 ・調べた同音異義語をアプリを使ってまとめる。  他の同音異義語についてもタブレット端末で調べてみましょう。 「暑い」「熱い」「厚い」を見付けました。 それぞれの意味を調べたら、単語帳アプリにまとめましょう。	・他の同音異義語についても調べさせ、単語帳アプリにまとめさせる。 
10分	7 活動4 ・タブレット端末を活用して、調べた漢字を使った短文作りをする。	・調べた同音異義語を使った短文を自分で考え、タブレット端末に打ち込ませる。 ・正しく変換できているか確認し、印刷する。  タブレットをうまく使えば、漢字を書くのが苦手な私でも、漢字の文が作れるんですね！ 

▶ 指導に当たって

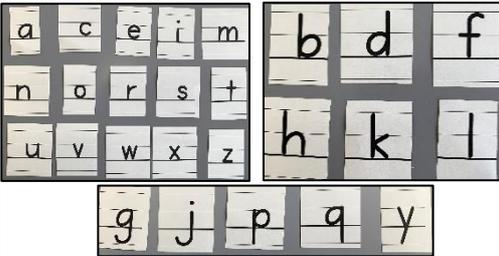
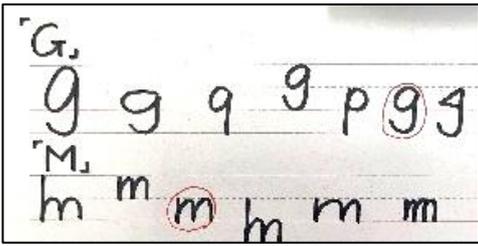
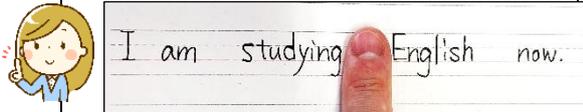
- ・アルファベットを書くことに苦手意識を持っているので、4罫線の使い方でもアルファベットを分け、形を捉えやすくする。また、違っているところや同じところに気付かせ、自分で気を付けて書けるようにする。
- ・活動1では、触覚や視覚を使い、楽しみながらアルファベットの形を作ることで、アルファベットの画の長さや向きに気を付けられるようにする。
- ・活動4では、マリさん自身が自分で英語と日本語の表記の仕方の違いに気付く、自分で気を付けられるようにする。また、具体的にどのくらいの間隔を空けたらいいのかを示すことで、理解できるようにする。

▶ 本時のねらい

- ・英語と日本語の表記の違いに気付くために、具体的に視覚で捉え、英単語を正しく書くことができる。

(心・環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 10分	<p>活動1</p> <p>・モールを使ってアルファベットの形を確認する。</p>	<p>・形を作るときには、辺の長さに注目したり、細かな違いに気付いたりできるようにする。</p> 
15分	<p>活動2</p> <p>・英語4罫線にアルファベットを書く。</p> 	<p>・4罫線の使い方を具体的に言葉で説明する。</p> <p>・一番上の罫線まで使う文字、2本目と3本目だけ使う文字、一番下の罫線を使う文字に分けて書くようにワークシートを用意する。</p> <p>・「a」から順番に学習するのではなく、形の似ている文字をアルファベットカードで見付けて、気を付けて書くようにさせる。</p>
5分	<p>活動3</p> <p>・学習したアルファベットを覚えているか確認する。</p> 	<p>・正解を見付けるだけではなく、なぜ間違っているかも聞く。</p> <p>4罫線にアルファベットを正しく書いているものに○を付けましょう。</p> <p>簡単です!この「g」一番下の線を使うんですよ。だから・・・右から2番目です!</p> 
10分	<p>活動4</p> <p>・英文と日本語の表記の違いに気付く。</p> <p>英語の書き方と日本語の書き方の違いはどこでしょう?</p>  <p>次の時間は、英語文を書いてみましょう!</p>	<p>・英語の教科書と社会の教科書(横書き)を見比べて、表記の相違点や共通点を問う。</p> <p>単語と単語の間が空いている!</p> <p>・単語と単語の間隔を具体的に示す。(人差指1本分)</p> <p>・単語と単語を空けずに書くと単語が読めないことに気付かせる。</p> <p>単語と単語の間は指1本分空ける!</p> 

通級指導教室 学習振り返りシート

年	組	氏 名
1	1	通級 マリ

担当の先生
森村 ミユ



今日の授業を振り返り、自分自身で頑張ったと思えること、できたと感じたことを書いてみましょう。

月 日	学習の内容	今日の目標	感想・反省等
6/18 (木) 3校時	勉強や生活について先生と話をした。これからの通級での学習を考えた。		初めて通級で勉強したので、きんちょうしたけれど、先生と話をし、これからがんばっていこうと思った。
6/24 (水) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の仲間分け 短文作り 	<ul style="list-style-type: none"> にんべんの漢字を覚えるためのごろあわせを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字をパズルのようにして勉強したのは初めてだった。ごろあわせを考えるのが楽しかった。
/ ()			

通級指導教室 指導の記録シート(2週ごと)

年	組	毎週回覧する場合は、加工してお使いください。	教頭	教務	特支 C
1	1	通級 マリ			

回覧後は特別支援教育コーディネーター、教務主任、教頭、校長が押印後、指導の記録として保管。

学期の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った漢字の覚え方を知り、習得した漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 ・形が類似しているアルファベットの違いを見分け、正しく書くことができる。
-------	---

1. 通級指導教室の指導内容の記録 令和2年6月15日 ~ 6月26日

月日, 校時	指導内容	生徒の学習の様子
6/18(木) 3校時	学習や生活で困っていることについて話し合い、今後の通級での学習を考えた。	自分が困っていることに向き合い、これから改善に向けて頑張っていこうという意欲が感じられた。
6/24(水) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の仲間分け ・短文作り 	漢字の学習に意欲的に取り組み、分解要素に分けることに興味を示した。「信」を覚えるために、「人が言ったら信じよう」と語呂合わせを考えた。

欄が足りない場合は加工してお使いください。

2. 通級指導担当教員から各教科担任へ、授業中に配慮してほしい点など

・小学4年生程度の漢字の学習を行っています。教科書等で漢字が読めないときには、読み方を教えて振り仮名を振らせてください。ノートに授業の振り返り等で文章を書くときに、平仮名で書くことが多いと思いますが、漢字で書くように添削せず、文を書いたことを認めてください。ノートの漢字の間違い等は、通級で生徒と一緒に直します。徐々に漢字を使って文章を書けるように指導していきます。

通級による指導を行い、通常の学級で留意してほしい点を記入します。

3. 学級担任や各教科担任から、普段の授業における生徒の様子など

教科名	教科担任名	授業中に気付いたこと(改善を要する点だけでなく、良い点や成長も含めて)
国語	〇〇 〇〇	読めない漢字が多く、教科書の内容が理解できていないように感じる。しかし、板書をしっかりノートに写し、勉強しようという意欲が見られる。
数学	〇〇 〇〇	計算の仕方を覚えると自分で問題を解くことができた。文章問題は、クラス全体でどんな問題かを確認することで立式できた。
理科	〇〇 〇〇	班の友達と協力して実験に取り組んでいる。実験結果の予想はできるが、理由を書くことは難しい。
社会	〇〇 〇〇	グラフから読み取ったことをノートに書く活動では、どのように書いていいかわからず書けなかったが、言葉で発表することができた。
英語	〇〇 〇〇	言語活動では、自分から進んで友達に声を掛けることは難しいが、友達から声を掛けられると、笑顔で活動に参加している。アルファベットに書き間違いが多い。
音楽	〇〇 〇〇。
美術	〇〇 〇〇。
保健体育	〇〇 〇〇。
技術・家庭	〇〇 〇〇。
学級	〇〇 〇〇	HR 等で話をするときには、話の内容を可視化したことで、マリさんだけでなく、クラス全体に確実に伝達することができている。

2の記入後、このシートを回覧し、各教科担任や学級担任に、通常の学級での生徒の様子について記入してもらいます。

毎月や半期ごとなどの場合は加工してお使いください。

保護者連絡シート 1学期

年	組	氏名
1	1	通級 マリ

作成日
令和 2年 7月 19日

学期の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った漢字の覚え方を知り、習得した漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 ・形が類似しているアルファベットの違いを見分け、正しく書くことができる。(大文字、小文字)
-------	--

月日	通級指導教室での学習内容	学習の様子
6/18 (木)	学習や生活での困り感について話し合い、今後の通級での学習を考えた。	自分が困っていることに向き合い、これから改善に向けて頑張っていこうという意欲が感じられた。
6/24 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の仲間分け ・短文作り 	漢字をへんとつくりなどに分ける学習に意欲的に取り組み、「信」を覚えるために、「人が言ったら信じよう」と語呂合わせを考えた。
6/29 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の仲間分け、漢字パズル ・短文作り 	授業の始めに、先週学習した漢字の復習をした。すべて正しく書くことができた。本時では、うかんむりの漢字について学習した。漢字をどのように分解したら覚えやすいかを考えながら色分けしていた。
7/3 (金)
7/7 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・同音異義語 ・タブレット端末を活用した短文作り 	「厚い」と「暑い」、「熱い」の意味の違いを理解し、タブレット端末を使って短文を作り、正確に変換することができた。
7/16 (木)
7/20 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの書き方 	学期を通して、学習への取り組みの様子や生徒の成長について記入します。家庭で取り組んでほしいことやお願いしたいことなどもあれば記入しましょう。

欄が足りない場合は加工してお使いください。

通級担当より	<p>初めての通級の授業では、不安そうにしていたのですが、回数を重ねるごとに授業に慣れ、笑顔が増えました。漢字の学習では、漢字を自分なりの方法で分けて、正しく漢字を覚えることができました。漢字を分解して覚える方法はマリさんに合っているようです。また、タブレット端末を活用した短文作りにも挑戦しました。漢字の読みや使い方を正確に覚えることで、文を作ることができることに気づき、大変うれしそうです。2学期も、自己肯定感を高め、自信を持って学習に取り組んでいけるように指導していきます。</p> <p>通級指導担当名 森村 ミユ</p>
学級担任より	<p>通級による指導を始めてから、通常での学級の授業にも意欲的になり、学習した漢字を使ったり、分からない漢字には教師や友達に聞いて自分から進んで振り仮名を振ったりする姿が見られました。通級指導教室での学びを教室でもどんどん生かせるように支援していきます。</p>

通信票の所見と重なる部分もあるかもしれませんが、通級による指導の成果が感じられるエピソードを書き、生徒の成長を保護者に伝えましょう。

保護者より	
-------	--



指導目標や指導内容が適切だったか、不安なのですが…。

学期ごとに、指導目標や指導内容が適切であったかを振り返りましょう。下の図は、PDCAサイクルと呼ばれるものです。計画・実行・評価・改善を行うことで、よりよい指導につながります。



PDCA サイクル

- ・ 実態把握
- ・ 課題の共有化
- ・ 実態に見合った目標設定や指導内容の模索



- ・ 通級による指導
- ・ 指導の記録

- ・ 次学期の指導目標や指導内容の検討
- ・ 個別の指導計画への反映

- ・ 目標達成の確認
- ・ 通常の学級における生徒の変容や成長



具体的には何をすればいいのでしょうか？

自立活動の「個別の指導計画」に、評価の欄があります。例えば1学期終了後、通級指導教室と通常の学級において、指導目標や指導内容は適切だったかを振り返りましょう（評価）。そして2学期の指導目標と指導内容を決めましょう（改善）。特別支援教育コーディネーターの先生に相談しながら行くとよいですね。



分かりました。相談しながらやってみます！

個別の教育支援計画

令和2年6月7日作成

〇〇市立美田杜中学校

学年・組 (担任名)	1年 1組 (〇〇 〇〇)	2年 組 ()	3年 組 ()
生徒氏名	つうきゅう 通級 マリ	性別	女
保護者氏名	通級 守	住所・TEL	宮城県××市△△△△△1-4
諸 検 査	検査年月日	検査名	実施機関
	H30.〇.〇	WISC-IV	〇〇〇病院
検査結果	FSIQ××, VCIO〇, PRI△△, WMI□□, PSIO〇		
行動や認知の 特性・課題	<ul style="list-style-type: none"> 目で見えて理解する力が高いが、耳で聞いて理解する力が弱い。 小学4年生の時に読み書き障害の診断を受けている。 		
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> すべきことを目で確かめると、行動することができる。 手本を見せると模倣できる。 自分の考えを言葉で表現することができる。 	
	不得意なこと 苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きが苦手。 漢字を使って文章を書くことが苦手。 形の似ているアルファベットに間違いが多い。 	
生徒・保護者の 願い	生徒	<ul style="list-style-type: none"> 中学生になったので、もっと勉強を頑張りたい。 英語の勉強が分かるようになりたい。 	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きができるようになってほしい。 高校入試を見据えて、家庭学習の習慣が付いてほしい。 	
具体的な支援	家庭	学校	医療・その他関係機関
	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に新聞を読む機会を設ける。読めない漢字があったら読み方を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> 通級による指導を週1回行う。 指示は可視化する。 読めない漢字があったら読み方を教える。 	<p>個別の指導計画と共通する項目もあるので確認してください。</p>
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストは、ルビ付き用紙を使用する。 		

➡ 様式・資料集 合理的配慮3観点11項

個別の指導計画とともに、保護者に確認してもらいます。

私は、以上の内容を確認しました。

令和2年 6月10日

保護者
作成者

印
印